



小学部 算数科 一題材の実践と振り返り

題材名:『なんでも調査兵团』で、調べたお菓子の値段やキャラクターの身長をグラフにして、数量を比べよう

【学習指導要領の段階と内容】

題材目標

授業者:中島 拓也

小学部 3段階 D:データの活用 知・技 :ア身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。 思・判・表:ア個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現すること。 学び :ウ数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。	知・技	『なんでも調査兵团』で、お菓子の値段やキャラクターの身長を比べる時、記号を書き入れる位置と記号が示す数量がわかり、縦軸と横軸が記入されているワークシートを使って記号で表したグラフを作ったり、記号の数量の多少を答えたりする
	思・判・表	自分が作ったグラフについて、それぞれの記号の数量について考え、数量の違いを判断し、問いに正しく答える
	学び	グラフで表すことのよさや楽しさを感じながら、繰り返し問いに答える

授業づくりの手順

前題材までの到達状況から知識及び技能を列挙する

列挙した知識及び技能を段階化する

段階化した知識及び技能から指導内容の範囲を決定する

各児童(生徒)の指導内容(知・技)の習得のために内容を細分化する

細分化・段階化した知識及び技能の一覧を実態表の項目として、児童(生徒)の実態を把握する

知識及び技能の指導の計画を立てる

思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

考察

- ・グラフにすることで、数値の違いが一目でわかるため、記憶の保持に困難がある子どもも「〇〇のお菓子は高い」など、グラフを読み取れていると判断できる発言をしていた。数字を見比べた時と記号の数値で見比べた時の違いについて話し合えば、対話の中でグラフのよさに気づく場面が設定できたのではないかな。
- ・題材の終了まで教師が「問う」学習スタイルであった。①自分で表(グラフ)を作りたい対象を決め、②表(グラフ)を白紙から作り(教師の支援あり、表計算シートアプリなどがあれば使用する)③発表なども三次に計画をすることでさらに対話的で深い学びが実現できたと考える。
- ・実生活に生かされる場面を意図的に設定していく(例:芋ほり大会で、重さ・長さを競う際に、表だけでなくグラフにしてまとめることで他の児童にも結果を視覚的にわかりやすく示すことができる)。

【教材と仕組み】

- ・コンビニのお菓子の値段やアニメのキャラクターの身長についてインターネットで調べる。
- ・縦軸に数値、横軸にお菓子の名前などが記載されたワークシートに数値を記入していく。
- ・縦軸の数値を見ながら、お菓子やキャラクターに対応する値の高さまで○をつける。
- ・○の高さを比べることで数値の多少が比較できる。



調べたものを表やグラフにしよう

～ローソンのお菓子の値段編～

質問	答え
一番値段が高いお菓子の名前は?	<input type="text"/>
一番値段が安いお菓子の名前は?	<input type="text"/>
値段が同じお菓子の名前は?	<input type="text"/>
200円以上のお菓子は何個?	<input type="text"/>
あなたが一番食べたいお菓子は?	<input type="text"/>



サッポロポテトバーベQ あじ 116円 (税込125円)



チロルチョコ ねないこ だれだまっくろソフトクリーム 36円 (税込38円)

インターネットで調べたお菓子の値段

観点

評価

知・技	横軸のお菓子やキャラクターの名前の上に、縦軸の値を手がかりに、正しい値段や身長の数値の高さまで○を書き入れてグラフを作り、記号の数値の多少を比較することができた。
思・判・表	自分が作ったグラフの最大値や最小値を正しく答えることができた。
主体的な姿	それぞれの数値について感想を持ちながら、記号の多少を比べて繰り返し問いに答えることができた。



グラフで表すことのよさや楽しさを感じるために・・・

- ・はじめはお菓子の値段(数値)を見比べていた。それにより、それぞれの数値を見て判断することは時間がかかっていた。
- ・そこで、「学校にくる日数」、「みんなの靴のサイズ」など、興味関心に基づいた棒グラフを提示し、内容について話し合うことで、一目で数量の多少が比較できるグラフのよさに目を向けるようにした。

小学部の友だちのランドセルの色しらべ

	黒	赤	青	ピンク	茶色	水色	紺	緑
0								
0	0							
0	0	0	0	0	0			
0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	2	4	3	1	1	1	1



数値を棒の高さで表すために・・・

- ・グラフの縦軸の値が左端にあるので、横軸の右の方へ行くほど記号を書き入れる位置がわかりにくかった。
- ・そこで、それぞれの記号を書き入れる際に、縦軸の対応する値の所に指を置き、そこから水平に線を引いて、該当する項目の位置で指を止めることで、正しい位置まで記号を書き入れることができた。

